

目指せ！  
カーボ  
ンニュ  
ート  
ラル

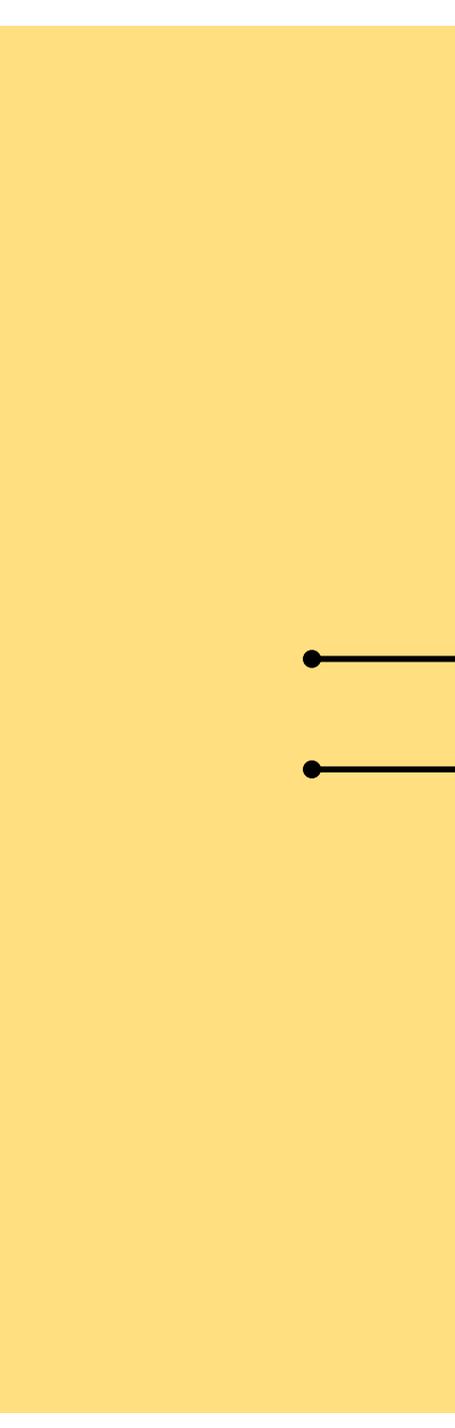
# Road to Zero Carbon City!

カーボンニュートラル推進事業について

\*\*\* 2024 ▶ 2025 \*\*\*



環境共生課脱炭素推進担当



---

## Ⅰ 補助事業等の進捗について

---

# ■太陽光発電設備（浄水管理センター／PPAモデル）の導入について

【地域レジリエンス・脱炭素化を同時実現する公共施設への自立・分散型エネルギー設備等導入推進事業(補助)】

## 1. 工事等のスケジュール

(1) 着工／完了：令和6年10月21日～令和7年1月末

(2) 供用開始：令和7年4月

## 2. 太陽光発電設備の概要

(1) 設置事業者：秦野ガス(株)・東京ガス(株)グループ

(2) 発電容量：500.76kW

(3) 年間発電量：626,030kWh } 一般家庭の約150世帯に相当

【電力使用量全体の約10%】

## 3. 投資対効果

物価高騰並びに工事工法等の見直しにより、プロポーザル時に比べ単価は微増(44,330円)したが、これまで困難視されていた「環境施策≒経済性」の担保を実現。

(1) 電気使用料：1,098,020円/月【定額制・税込】

21.04円/kWh【従量制換算】

23.00円/kWh【市場価格※】

※政府統計(物価・為替・貿易等)を勘案した見通し及びエネルギー事業者からのヒアリングによる

(2) 推定効果額：▲1,227,000円/年 (差額▲1.96円×626,030kWh)

約▲24,540,000円/20年

## 4. 二酸化炭素排出削減効果 (t-CO2)

年間削減量	20年間【累計】
286.10	5,272.74

▶ 浄水管理センターの約10%!

■完成イメージ



■工事の様子



■パネルの設置（11/19現在）



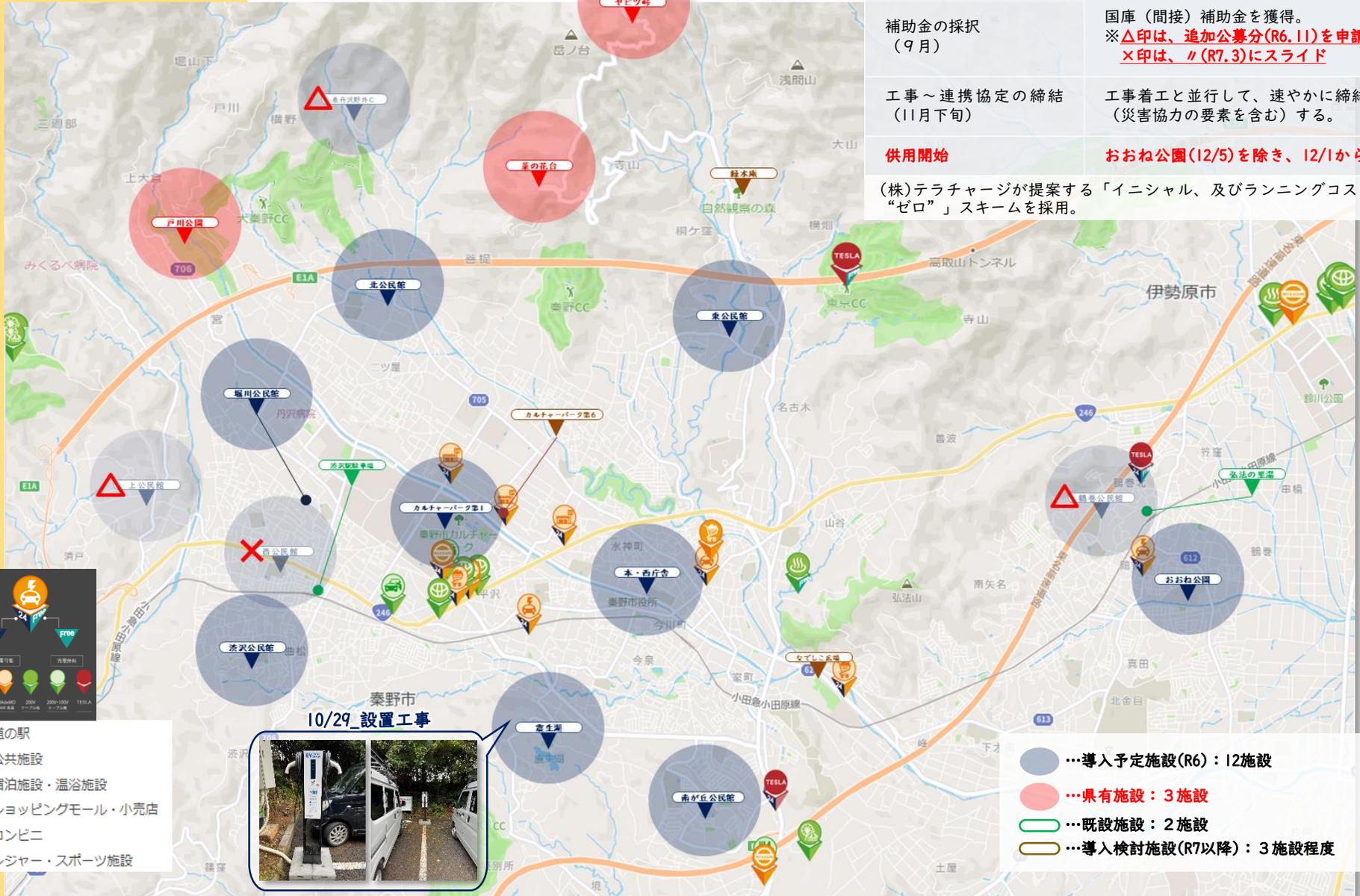
# EV充電スタンドの導入について

【クリーンエネルギー自動車の普及促進に向けた充電・充てんインフラ等導入促進補助金】

## スケジュールと事務内容（事業者※対応）

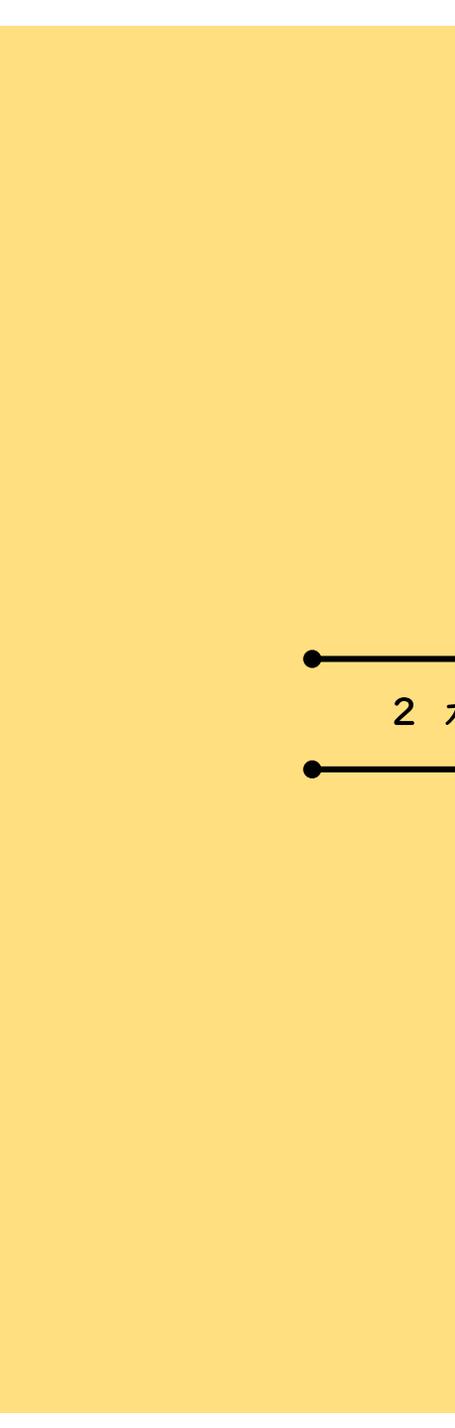
補助金の採択（9月）	国庫（間接）補助金を獲得。 ※△印は、追加公募分(R6.11)を申請 ×印は、〃(R7.3)にスライド
工事～連携協定の締結（11月下旬）	工事着工と並行して、速やかに締結（災害協力の要素を含む）する。
供用開始	おおね公園(12/5)を除き、12/1から。  (株)テラチャージが提案する「イニシャル、及びランニングコスト“ゼロ”」スキームを採用。

- 道の駅
- 公共施設
- 宿泊施設・温浴施設
- ショッピングモール・小売店
- コンビニ
- レジャー・スポーツ施設



10/29\_設置工事

- ...導入予定施設(R6)：12施設
- ...県有施設：3施設
- ...既設施設：2施設
- ...導入検討施設(R7以降)：3施設程度



---

## 2 カーボンニュートラル推進プロジェクト特別枠予算(R7)の概要について

---

## 1. リーディングプロジェクトのテーマ

“みんなごと”の推進による2050年カーボンニュートラル（脱炭素）の実現

## 2. 予算総額

**1,887,873千円【全21課の取組（11/18\_時点）】 ※昨年度比141%UP**

分野別内訳：①地域脱炭素関係	11,161千円	
②廃棄物処理・分別関係	555,784千円	（全体の29.4%）
③中小事業者支援（公共交通含む）関係	52,691千円	
④クリーンエネルギー関係	170,399千円	
⑤次世代自動車（EV・HV）関係	12,237千円	
⑥高効率照明機器（LED）関係	804,700千円	（ // 42.6%）
⑦森林吸収・固定化関係	280,901千円	（ // 14.8%）

## 3. 特出事業

### (1) 地域脱炭素関係(①)

補助金制度を新たに創設し、**民生部門の削減に注力した脱炭素を加速度的に推進します。**

### (2) クリーンエネルギー関係(④)

**浄水管理センターへの太陽光発電設備の導入を皮切りに、市役所における「脱炭素化アクション」**  
を実行していきます。

### (3) 高効率照明機器（LED）関係(⑥)

切替えの最終年度を迎えることから、**導入施設における費用対効果の検証作業を同時並行していきます。**

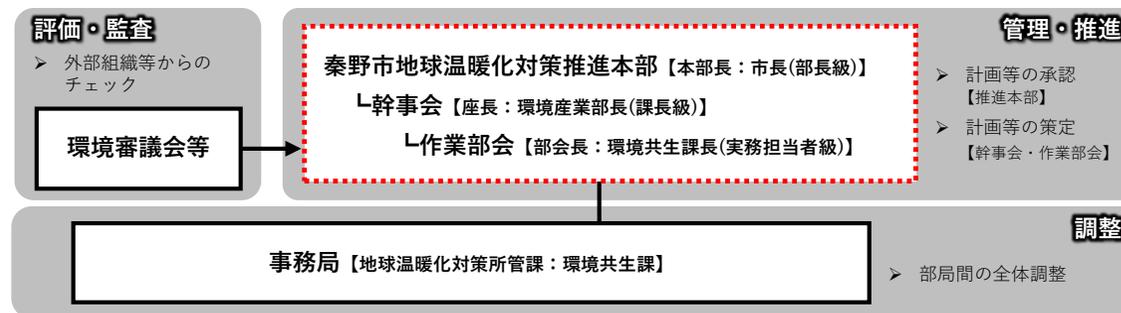
令和5年度	令和6年度	令和7年度
21/73施設	17(38)/73施設	35(73)/73施設

### 3 秦野市地球温暖化対策推進本部の進捗について

**【本部設置の趣旨】**

国際的な重要課題である地球温暖化の対策に向け、市民及び事業者との協働により本市域における足元からの取組をけん引し、持続可能な脱炭素社会を構築するために設置。

**【体系図(抜粋)】**



## 1. 作業部会の構成

### (1) レジリエンス部会

災害対応力“レジリエンス”の強化『地球温暖化対策実行計画「適応策編」に対応』を目的に、昨年度に設置したPPA部会及び公用車部会を発展・統合させたもの。そこで、各部会で明らかとなった検討事項や、成果を照らし合わせた次のフェーズとして「レジリエンス」を位置付け、それらを効率的かつ加速的に応用・検討していきます。

#### ■検討テーマ

**EV活用の転換 ～ “走る蓄電池” から “蓄電池が走る” へ～**

### (2) バイオマス部会

『秦野市バイオマス産業都市構想』の策定が完了したため、事業化プロジェクト(短期～長期：計6プロジェクト)の推進に係る関係各課の認識共有を図るとともに、官民のステークホルダー等を交えた専門部会(仮称)を発足させます。

#### ■今年度の流れ

12月：農水省が主宰する選定委員会にて、構想のプレゼン【市長対応】

1月：**構想の選定**以降、事業化プロジェクト「秦野産木材の面的利用促進P（短期）」を中心に具現化を進めます。

## 2. その他

### (1) 個別協議

①補助金の創設（財政課）

②はだの環境マネジメントシステム「EMS」の発展的集約（財産管理課）

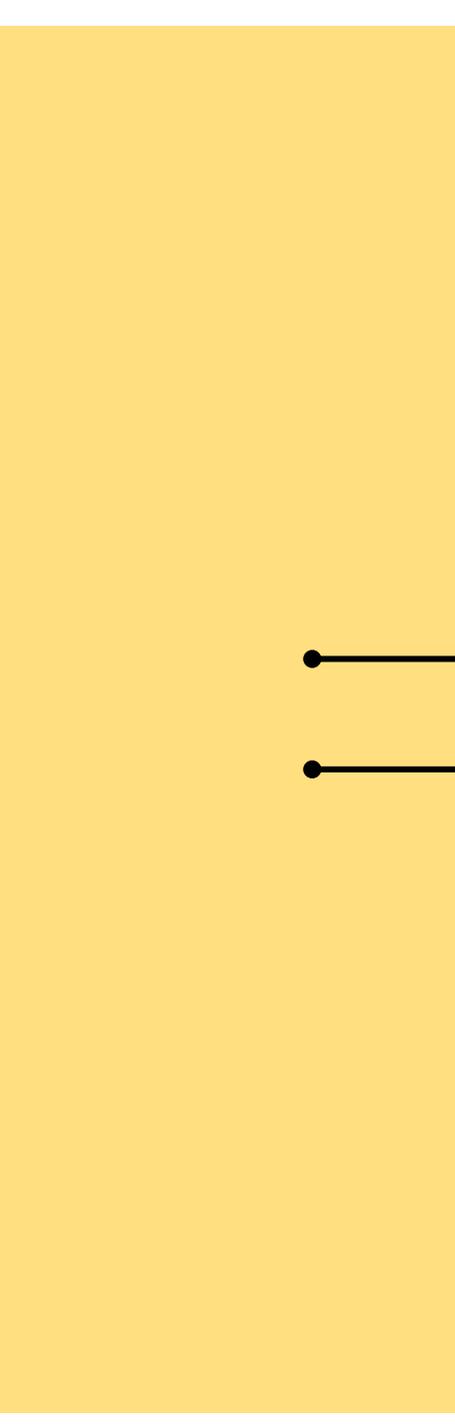
### (2) 特設研修会

学校給食×脱炭素の醸成「フードデザインカードを活用した“CN・スクールランチ※”の実現に向けて」

※従来の「かながわ産品学校給食Day」を新たに「**はだの脱炭素給食Week**」へバージョンアップ！など



**“みんなごと”の推進**



---

#### 4 2022年度(令和4年度)の温室効果ガス量について

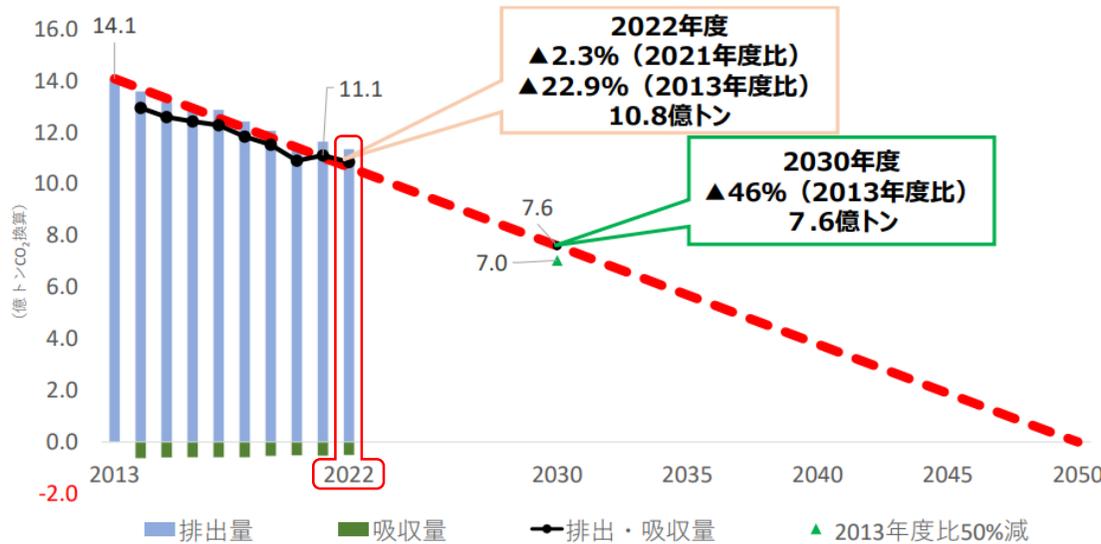
---

## ■ 我が国における取組の進捗と排出量の推移【環境省／国立環境研究所公表】

### 01 2030年度目標及び2050ネットゼロに対する進捗

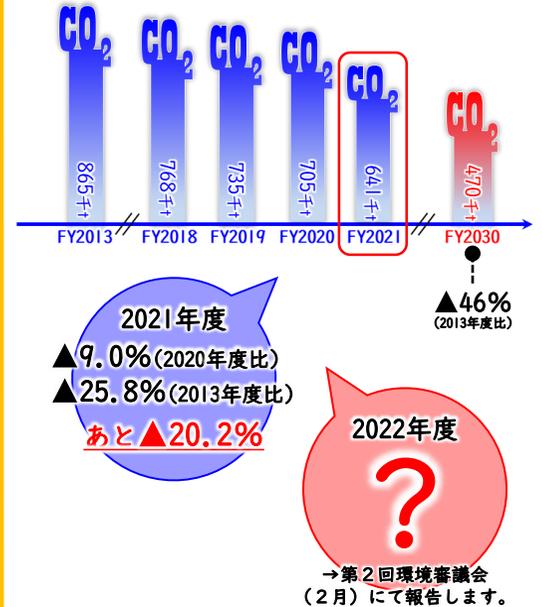


- 2022年度の我が国の温室効果ガス排出・吸収量は約10億8,500万トン（CO<sub>2</sub>換算）となり、2021年度比2.3%減少（▲約2,510万トン）、2013年度比22.9%減少（▲約3億2,210万トン）。
- 過去最低値を記録し、オントラック（2050年ネットゼロに向けた順調な減少傾向）を継続。



### ◆ 秦野市域の推移は？

算出に必要な各種データが出揃うのが、12月の予定であることから、参考値として2021年度(令和3年度)実績値を添付します。



### 02 ガス別の排出量の推移



- 2022年度のCO<sub>2</sub>排出量は約10億3,700万トンとなり、2021年度比2.5%減少（▲約2,700万トン）、2013年度比21.3%減少（▲約2億8,090万トン）。
- 2004年以来、年々増加していたハイドロフルオロカーボン類（HFCs）の排出量は減少に転じた。

### 03 部門別のCO<sub>2</sub>排出量の推移



- 前年度からのCO<sub>2</sub>排出量の変化を部門別に見ると、産業部門は5.3%減少（▲約1,970万トン）、運輸部門は3.9%増加（+約720万トン）、業務その他部門は4.2%減少（▲約790万トン）、家庭部門は1.4%減少（▲約220万トン）。
- コロナ禍からの経済回復により輸送量が増加し、運輸部門の排出が増加した一方、産業部門、業務その他部門、家庭部門等については節電や省エネ努力等の効果により、各部門の排出量は減少したと考えられる。